

津市立南が丘小学校だより

かがやく未来

2025. 4. 25 N03

そっと声をかけることで…



毎朝、坂の上で子どもたちを迎えていると、様々な表情を見かけます。いつも笑顔の子が暗い表情でいたり、泣きそうな表情であったりするととても心配になります。声をかける時もあれば、職員室に連絡し、教室で様子を見るように伝えることもあります。1年生は「勇気の一步」を踏み出し、新たな環境で毎日、新たな挑戦を行っています。3週間という期間で少しずつ、授業や生活リズムに慣れてきた子どももいますが、新たな環境の中でまだまだ不安

を感じている子どももいます。もともと人は先を見越し、「挑戦したい」「成長したい」という思いがあり、そのために先を見通すことによって不安が生まれるのです。この不安が強すぎると本来の力が発揮できなかったり、行動することすらできなくなったりしてしまうことになります。日本人はもともとセロトニンが伝わりにくい細胞をもっているようで「不安先行型」の割合が多いそうです。(Lidea HP) 脳科学者である枝川 義邦（よくに）教授は居心地のよい部屋（環境）をつくることでセロトニン神経に働きかけて不安を和らげることができると言っています。1年前、南が丘小学校に校長として赴任して校長室を自分が落ち着くように手を加えてきたことは実は無意識のうちに不安を和らげようとしていたのかもしれないと思いました。また、不安が募ると孤独を強く感じるようになると言われます。私はこの傾向があり、心理的孤立に陥り「自分で何とかしなければ…」と思いつぎ、悪循環になることもしばしばです。そんな時、誰かが声をかけてくれたり、話を聞いてくれたりすることで不安が和らぐこともあります。大人である教師や保護者が子どもの様子を見て声をかけることと同時に、子どもたち同士でそっと声をかけてあげられる関係をつくっていきたいと思います。

ある日・ある教室で…

教室を回っていてある教室に入った時のことでした。この時間、担任はタブレット端末にあるオンラインアプリを使って算数の復習をする予定でした。ところがネット上のトラブルか8名程度の児童がうまくログインできない状況にありました。そのうち、数名は自分から友だちに声をかけ助けを求めていましたが、残りの児童はどうすればよいのか…友だちに声をかけられずに困っている姿がありました。するとそれぞれの子どもたちのところに何名かのすでにログインしている児童が寄っていった一緒に解決策を考えてくれていました。しばらくしてすべての子どもが見事にログインすることができました。国連をはじめ、様々なところで“誰一人取り残さない社会”という言葉がキーワードとして使いますが子どもたちはもうすでにできている、大人が学ばなければならない…と感じました。

